



林産部門で県内3人目の内閣総
理大臣賞に輝いた芳賀計市さん

第44回農林水産祭林産部門

芳賀計市さんが総理大臣賞

財団法人日本農林漁業振興会主催の平成十七年度第四十四回農林水産祭林産部門の内閣総理大臣賞に、荒川の芳賀計市さん（六）が選ばれました。

同賞は優れた農林水産物の生産者に贈られるもので、芳賀さんのシイタケは九月に実施された現地調査をもとに審査が行われ、きめ細かい温湿度管理などで優れた乾シイタケ生産を続けていることが高く評価されたものです。同部門での受賞は県内で三人目、宮古管

内では初めての受賞となります。

全農乾椎茸品評会や全国乾椎茸品評会で通算十四回、農林水産大臣賞を受賞するなど数々の受賞歴を持つ芳賀さん。「これまでの賞とは違い、自分にとって最高の賞を頂きました。最盛期に手伝ってくれた作業員の皆さんや家族のおかげです」と受賞を喜びます。

芳賀さんがシイタケ栽培を始めたのは二十九年前。「始めたころは生シイタケの生産を行いましたが、出荷調整ができずに価格の暴落を招きました。とても大変でした」と当時を振り返ります。

栽培を始めて四、五年目には乾シイタケに転換。五千本から始めたほだ木も、現在は約八万本になり、後継者である長男の隆さん（二七）と作業に当たります。「気象条件は毎年異なり、去年成功したからといって今年も同じ方法で成功することはありません。経験だけが頼りです」と、常にビニールハウスの温湿度管理に気を配ります。

抱負については「長年やっていくと大事な基本を忘れることがあります。天狗にならず初心に帰り、高品質の乾シイタケをつくってほしい」と意欲満々に話します。

全国肉用牛枝肉共励会

芳賀綱子さんが優秀賞2席



賞状とトロフィーを手に喜びの芳賀綱子さん

十月二十八日に東京都中央卸売市場食肉市場で開かれた平成十七年度全国肉用牛枝肉共励会（東京食肉市場協会など主催）の和牛雌牛の部で、豊間根の芳賀綱子さん（六）が全国3位に当たる優秀賞2席に選ばれました。

大会は和牛枝肉の外観や脂肪の入り具合など肉質の良さを競うもので、生産者にとっては手塩に掛けた牛の肉がいくらかで落札されるかという競り売りを兼ねた大きなイベント。芳賀さんの牛の枝肉は、全国から出品された百十五頭の中で高い評価を得たものです。「全国で認められてうれしいです。ちようど体調を崩して入院しているときに受賞の報告を受け、元氣

ができました。子牛に恵まれたこともありますが、生産者仲間の協力や関係者の皆さまの指導により、良い結果につながりました」と感謝の気持ちを表す芳賀さんです。

現在、飼っている肉用牛は百二十頭。早朝六時に二男の堀合正幸さん（三六）と牛舎に向くことから芳賀さんの一日が始まります。「牛と向き合えば牛の体調が分かります。人間と同じで調子のいいときも悪いときもあります」と、餌を与えながら牛の健康状態を確かめます。抱負については「今後とも牛一頭一頭に目が行き届くような適正規模で管理し、良質の肉牛生産を目指していきたい」と今日も牛の世話に精を出します。